

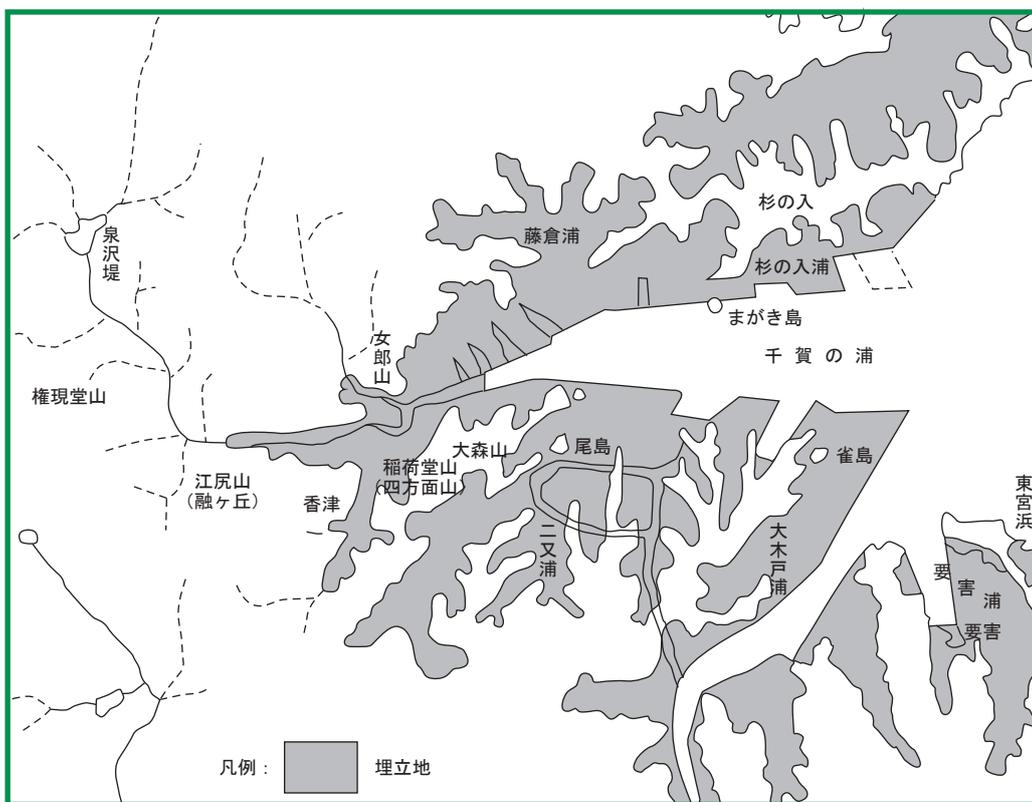
2 自然環境

▶ 地形・地質

市の西部、南部及び北部の三方は起伏に富んだ丘陵となっており、中央部の平地を囲み、東部の港湾に口を開いた袋状の地形をしています。

また、中央部をはじめ平地のほとんどは埋め立てによるもので、現在では埋立地が市街地の60%にも達しています。元来は複雑に入り組んだ沈降性海岸地形で、現在も随所に切り立った崖が見られます。

丘陵に点在する井戸は浅く、薄い表土で覆われた軟岩の隙間からの地下水で利用されており、水量は乏しいものとなっています。

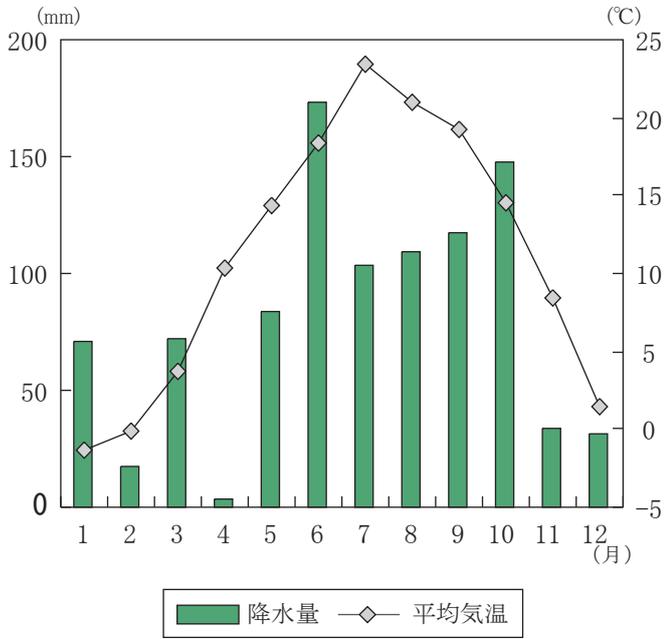


出典：「塩竈市の環境」

図2-1 埋立状況

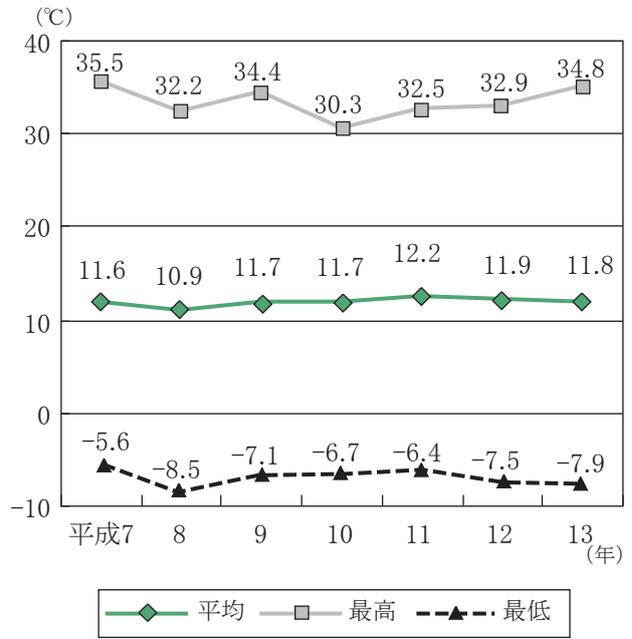
▶ 気候

気候は、海に面していることから海流の影響を大きく受け、また背後が丘陵地であることから、冬は比較的温暖で、夏の気温も比較的低い海洋性気候となっています。また、東に開いた地形のため、夏季の季節風も比較的強くなっています。



出典：「塩竈市の環境」

図2-2 月別平均気温及び降水量(平成13年)



出典：「塩竈市の環境」

図2-3 気温の推移

▶ 湖沼・河川

市の西部、多賀城市及び利府町との境界部に市唯一の湖沼「加瀬沼」があります。昭和48年にこの付近一帯が宮城県の緑地環境保全地域に指定されました。また、大きな河川はありませんが、都市下水路的な小河川の新町川、宮町川、庚塚川、及び石田川があります。

▶ 動植物の分布

● 加瀬沼周辺

加瀬沼周辺にはクリ・コナラ林が多く、モミ林、アカマツ林、スギ林などが随所に分布しています。一年を通して、エナガ、シジュウカラ、ホオジロ、ヒヨドリなどが見られ、冬にはオオハクチョウやマガモ、オナガガモ、ユリカモメなどが観察されます。また県内では希少なガガブタ、ヒメシロアザサといった水生植物が残されています。

● 鹽竈神社周辺

市のほぼ中央部に位置する鹽竈神社には、スギ林や多羅葉(宮城県天然記念物)をはじめ、地生、栽植併せて五百種に及ぶ植物が繁茂しています。中でも塩竈桜は国の天然記念物として名高く、『市の木』にも指定されています。またキジバトやセキレイ、ウグイスなどの鳥類も数多く観察されています。

● 浦戸地区

松島湾の一角をなす浦戸諸島には、アカマツ林やクロマツ林が分布しており、大型哺乳類のタヌキの生息も観察されています。